

氏名	伊藤 恭子
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第66号
学位授与の日付	昭和39年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	嚔下時の心臓調節神経及び腹部交感神経の活動
論文審査委員	教授 西田 勇 教授 福原 武 教授 谷奥 喜平

学位論文内容要旨

嚔下運動に際しては、呼吸運動及び胃腸運動の変化が反射的にひきおこされる他に、循環系の変化もおきるものであるが、嚔下時には徐脈或は速脈、及び血圧下降或は上昇等の様々な効果が報告されている。

著者はネコ、及びウサギを用いて、心臓支配の交感神経、副交感神経並びに腹部血管支配の内臓神経及び他の交感神経よりの遠心性衝撃を誘導しながら嚔下時のそれらの活動の変化を追究した。

その結果心臓交感神経の遠心性衝撃は嚔下運動がおきると一過性に完全に抑制されこの現象は嚔下筋を麻痺した後でもおきる。心臓迷走神経の遠心性衝撃も嚔下によって一過性に抑制される。内臓神経、下腹神経及び腹部交感神経腎臓枝の遠心性衝撃も嚔下時には完全な抑制がみられることから嚔下反射の際の嚔下中枢、心臓調節中枢及び血管運動中枢の相互の関係を示す模型図を提示した。

(米子医学雑誌 12巻2号(昭和36年)発表)

論文審査の結果の要旨

伊藤恭子提出の「嚙下時の心臓調節神経及び腹部交感神経の活動」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

嚙下運動に際しては、呼吸運動及び胃腸運動の変化が反射的にひきおこされる他に、循環系の変化もおきるものであるが、嚙下時には徐脈或は速脈、及び血圧下降或は上昇等の様々な効果が報告されている。

著者はネコ、及びウサギを用いて、心臓支配の交感神経、副交感神経並びに腹部血管支配の内臓神経及び他の交感神経より遠心性衝撃を誘導しながら嚙下時のそれらの活動の変化を追究した。

その結果心臓交感神経の遠心性衝撃は、嚙下運動がおきると一過性に完全に抑制されこの現象は嚙下筋を麻痺した後でもおきる。心臓迷走神経の遠心性衝撃も嚙下によって一過性に抑制される。内臓神経、下腹神経及び腹部交感神経腎臓枝の遠心性衝撃も嚙下時には完全な抑制がみられることから嚙下反射の際の嚙下中枢、心臓調節中枢及び血管運動中枢の相互の関係を示す模型図を提示した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。